

熊本地域医療

当院HPは
こちらから



センターだより

院長 杉田裕樹

令和6年(2024年)10月発行

熊本地域医療センター電話番号(代表) 096-363-3311 FAX 096-362-0222
〒860-0811 熊本市中央区本荘5丁目16番10号 <https://krmc.city.kumamoto.med.or.jp>

2024 **10** 通算233号
月号

熊本地域医療センター 理念

かかってよかった。紹介してよかった。働いてよかった。
そんな病院をめざし、地域社会に貢献します。

contents

- わかりやすい診療部紹介～皮膚科～…………… P1～2
- わかりやすい部門紹介～栄養サポートチーム(NST)～… P2
- ステップアップ研修…………… P3
- ピアパーティーを開催しました…………… P3
- 友達の輪～Relayトーク第31弾～…………… P4

わかりやすい 診療部紹介 Ver.3

～皮膚科～

～未来を拓く皮膚科診療を目指して～

皮膚科医長 さかもと りょうこ
坂元 亮子



日頃より患者様のご紹介、ならびにご支援を賜り、心より感謝申し上げます。今回は当院皮膚科の診療体制について改めてご紹介させていただき、より多くの患者様に貢献できるよう努めてまいります。

当院皮膚科では、外来診療を月・水・木・金曜日の午前9時から午後16時まで、完全予約制にて行っております。患者様をお待たせすることなくスムーズに診療を進めるため、ご紹介いただく際には事前の診療情報提供書のFAX送信とご予約にご協力をお願いいたします。緊急性の高い場合は、お電話にてご相談ください。皮膚科の専門性が必要かどうか、判断に迷う場合もお気軽にお問い合わせください。

なお、火曜日は手術日となっております、電話対応が難しい場合がございますのでご了承ください。

当科では、アトピー性皮膚炎、円形脱毛症、乾癬などの慢性皮膚疾患に対し、バイオ製剤や分子標的薬を用いた最新の治療にも積極的に取り組んでおります。当科は日本皮膚科学会より、乾癬やアトピー性皮膚炎に対する分子標的薬の使用を認められた承認施設です。バイオ製剤や分子標的薬は従来の治療法では十分な効果が得られなかった患者様にも、新たな治療の選択肢として期待されており、当科では専門的な評価と治療計画に基づき適切な治療を提供しております。

また、当院は地域の総合病院として他科との



密接な連携を強みとしております。特に内科・外科・小児科との連携により、合併症を持つ患者様や入院が必要なケースにも柔軟に対応しております。さらに、熊本大学病院からの医師のサポートも受けており、常に最新の医療を提供できる体制を整えています。

おかげさまで、着任2年目を迎え、多くの患者様にご来院いただいております。「もっと早く受診すればよかった」という嬉しいお声も頂戴し、地域医療への貢献を実感しております。今後も、かかりつけ医の皆様と連携し、地域に根差した信頼ある皮膚科診療を目指してまいります。ご不明な点やご相談がございましたら、どうぞお気軽にご連絡ください。

引き続き、患者様のために最善を尽くしてまいります。

最後に、11月10日（日曜日）に開催される『皮膚の日記念市民公開講座』のご案内です。講座では、アトピー性皮膚炎に関する最新の知見や治療の実践的なアプローチについて、皮膚科エキスパートが講演を行います。臨床現場での経験やエビデンスに基づいた内容が含まれており、日常診療に役立つ貴重な情報を得ることができる機会です。どなたでも無料でご参加いただけますので、ぜひこの機会にお越しください。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。



わかりやすい 部門紹介

～ 栄養サポートチーム (NST) ～



栄養サポートチーム (NST) は活動を開始して18年目になります。コロナ禍で回診ができない状況や研修会もオンラインになる等の変化がありましたが、現在はコロナの状況を見ながら元の現場での活動に戻ってきています。

8年前からは言語聴覚士 (ST) も活動に加わり、増加する誤嚥性肺炎患者に対する対応強化に取り組み、更に2年前からは歯科衛生士 (DH) が加わることによって誤嚥性肺炎の一因である口内環境の悪化に対する口腔ケアの充実を図りました。

現在、週2回のNST回診を行っています。火曜日は3階と4階病棟、金曜日は5階病棟で、医師・看護師・管理栄養士・病棟薬剤師・言語聴覚士 (ST)、歯科衛生士 (DH) 等、多職種でカンファランスを行い、その後回診をしています。

これまでの活動の中で特徴的なのは誤嚥性肺炎患者の増加です。これは高齢化する我が国の医療

副院長 ささはら 笹原 たかゆき 誉之

の当然の流れで、呼吸器内科にとどまらず高齢者医療となっているすべての診療科・すべての患者の問題となっています。通常のPT (理学療法士) /OT (作業療法士) のリハビリと合わせて、ST/DHの誤嚥性肺炎に対する役割の重要性は急性期病院である当院においても増すばかりです。

従来通り、外科や消化器内科では消化器疾患や術後の栄養低下による身体能力の低下がないよう、必要十分な栄養摂取を目指して経腸栄養の促進・食種や食事形態・補助栄養食等のサポートを行っています。更にリハビリ部門とも連携し、ST/DHの介入も積極的に行い、入院後の身体能力や嚥下能力の低下を防ぎ、退院後の誤嚥性肺炎のリスク軽減に力を注いでいます。

また、褥瘡対策チームと連携して褥瘡患者の栄養サポートをこれまで同様行っています。

入院患者のより良い入院生活 (特に栄養面や嚥下を含めた身体能力の向上) に向けて活動を強化していきたいと考えています。

～疥癬患者に対するスキンケア～ について ステップアップ研修を行いました



今年度、第2回目となるステップアップ研修「疥癬患者に対するスキンケア」と題し開催しました。前回に引続き疥癬患者を通し、今回、感染対策しながらどのようにスキンケアを実践するか、疥癬を疑う皮膚の特徴について研修を行ないました。

疥癬は、疑っても虫が見つからず転院先で見つかったり、疑ってもみなかった症例が実は疥癬とあとで分かったりと私たち医療者を悩ませます。高齢化社会を迎え、免疫力の低下した高齢者がデイケアや施設などで感染する事例も増加しています。高齢者の皮膚は乾燥により皮膚のバリア機能が低下していることで、外部からの刺激を受けや

皮膚・排泄ケア認定看護師 おおうち かずみ
大内 和美

すくなっています。高齢者の皮膚の特徴を理解し、小さな皮膚の変化を見逃さないことが大切です。痒み訴える患者、訴えることができなくても掻き傷だらけになっている、ざらざらとした灰色の鱗屑を認める場合などは「疥癬かも？」と疑うことも必要かもしれません。今回、疥癬患者の対応により日頃から洗浄、保湿、保護といったバリア機能を維持するためのスキンケア重要性を更に実感しました。今回、参加いただいた医療機関、施設など地域の方とも疥癬患者に対するスキンケアについて共有することもできました。多数の参加ありがとうございました。

今年度も計画的に地域貢献活動として認定看護師によるステップアップ研修を開催していきます。皆様の参加をお待ちしています。



ビアパーティーを 開催しました

親栄会 たかむら ゆうき
高村 優希

2024年の夏は猛暑の連続で、過去最も暑い夏と呼ばれたそうです。そんな暑さを払うべく、去る8月16日に親栄会ビアパーティーを開催し、多くの方にご参加いただきました。

コロナ禍が明け、久しぶりに開催された昨年の親栄会ビアパーティーと同じく、今年もサクラマチクマモト内の店舗・ラソールガーデン熊本の1フロアを貸し切りました。開始時に降っていた小雨は止み、後半からはガーデンも解放され、病院職員の皆さんはもちろん、お子様方も思いっきり楽しんでいる様子でした。

食事は、大ぶりのお肉が乗ったステーキブ

レート。がっつりと楽しみながら、ビールはもちろん、ハイボールやカクテルなど、お酒も豊富に揃っていて、各々好きなお酒を手に取り、仕事やプライベートの話で盛り上がっていました。私自身、先輩方と、ざっくばらんにたくさんお話させていただきました。部署や年齢の垣根を越えた、楽しいひと時となりました。

親栄会役員となり、初めて担当させていただいた行事でしたが、ご参加いただいた皆様より労いのお言葉をいただき、大変嬉しく思いました。この場をお借りし、お礼申し上げます。

女医のミニマムハイブリッド開業

くまもと森都心クリニック いしい 石井 まさこ 雅子



はじめまして、くまもと森都心クリニックの石井雅子です。簡単に自己紹介させていただきます。熊本高校、産業医科大学を卒業した後、初期研修で熊本医療センター、その後熊本労災病院泌尿器科で1年後期研修を行いました。その後、ご縁あり千葉県で女性泌尿器科、泌尿器科と産業医の研修を積み、ダブルライセンスを手に入れて、2017年に熊本に帰郷しました。

友達の輪でご紹介いただいた、はくぞんクリニックの吉田純子先生とは四学年差で、かれこれ20年以上となります。今は無き（熊高の近くの）熊本ゼミナールの知究館の生徒と先生という立場から始まり、後期研修の熊本労災病院時代に再会しました。八代に赴任された先生方のご存知かと思いますが、八代という土地柄もあり若手の先生方は学年・病院を超えてとても仲良くなります。吉田先生とも、休みの日にドライブいたり、ごはんを食べたりと大変仲良くしていただきました。熊本に戻ってからは、今度は開業医女医とボーイズのママという共通点もあり引き続き仲良くしていただいています。

私の開業しているクリニックはユニークな形態をしており、泌尿器科、内科などをみる保険診療日と、美容皮膚科、女性泌尿器科（あえて女性泌尿器科外来は自費診療と表現しています）を行う自由診療日の半々を曜日で区切って診療しています。また、産業医科大学のお礼奉公期間で培ったスキルで県内様々な事業所の産業医も担当しており、保険診療：自由診療：産業医＝2：1：2の割合で平日あちらこちらで様々なことをしています。

熊本地域医療センターは当院からも近く、主に産業医先の事業所で指摘された生活習慣病の重症例の内科患者様や呼吸器科、アレルギー科疾患患者様を快くお引き受けいただいたり、また隣の医師会ヘルスケアセンター様には、職場の定期健診の胸部レントゲン（当院はミニマムな形態をとことん追求したクリニックなため、レントゲン装置を設置していません）を委託させていただいて大変感謝しています。

コロナ禍真っ最中の開業だったこともあり、人知れずひっそりスタートしたクリニックですが、いつからかユニークな診療をしている泌尿器科の女医がいるとジワジワと県内外からの患者様や、近医の先生方からご紹介をいただけるようになりました。今後も、治らない女性の泌尿器科疾患や外陰部疾患で彷徨っている患者様の受け皿、最後の砦として役割を果たしてまいりたいと思います。

次回の友達の輪の原稿は、同じ西区のみやはらレディースクリニックの宮原陽先生にバトンをお渡ししました。突然のお願いにもかかわらずご快諾いただき、誠にありがとうございます。宮原先生、よろしくお願いいたします。

次回のお話も、ぜひ読んでほしいと思います。

次回のお話も、ぜひ読んでほしいと思います。

熊本地域医療センター勉強会のお知らせ

日時／2024年10月28日(月) 19:00～20:00

形式／ハイブリッド方式 オンライン参加 or 会場参加
オンライン参加：ZOOM 会場参加：2階多目的ルーム

申し込み方法／kumamotochiiki@gmail.com（※1）までメールにて「所属医療機関名」および「氏名」を記載し、お送りください。（後日、詳細な参加方法についてご案内いたします。）

※会場参加を希望される方は、事前にお申し込みください。人数制限によりご案内できない場合がございます。※予定が変更になる場合がありますのでご注意ください。

（※1）メール作成用QRコード



①症例報告

『抗 INF-γ 自己抗体陽性播種性NTM症の1例』

呼吸器内科 木村 俊貴 医師

②特別講演

『麻酔導入後の気道確保ガイドラインについて』
CC7：医療の質と安全

麻酔科 柳 文治 医師

熊本地域医療センター

☎096-363-3311 (代表)

■紹介や転院調整はこちら
※地域医療連携室医師が対応いたします。

(平日9:00～17:00) ☎096-372-0600

■画像診断・内視鏡などの検査予約はこちら(連携室)

☎096-366-1323

編集後記

Y Relay トーク第31弾はくまもと森都心クリニックの石井雅子先生です。産業医先の事業所の患者さんを熊本地域医療センターやヘルスセンターにご紹介いただいているとのこと、「ジワジワと増えつつある県内外からの患者さん」も、引き続きご紹介お願いします。

K 息子がやっとこさ車の免許を取得。娘から寿命が縮まるのを覚悟して助手席に乗るがいいとのアドバイスを受ける私。寿命が縮まるどころか、ちんたらちんたら進まない。ミラーを見れば、後方は大渋滞。アッシーくんになれるのは、遠い未来のようです。

H 最近、月1の頻度でポーリングをしているのですが、毎回夢中になりすぎて翌日仕事にもかかわらず、日付が変わる時間まで投げつけてしまいます。もちろん翌日の仕事は、キーボードもろくに打てず、足を引きずりながら院内を歩く羽目になります。